



## プレゼンテーション力

～2020年 東京オリンピック・パラリンピック開催決定 おめでとう～

副校長 細井 宏一

2020年のオリンピック・パラリンピックを東京で開催することが決定しました。経済効果は、3兆円とも10兆円とも試算され、期待感と課題点とが取り上げられ、関連した話題で日本中が盛り上がっています。

「スペインのマドリッド」「トルコのイスタンブール」そして「日本の東京」の3候補がありましたが、チーム日本の努力が結実して、見事に成果を収めました。特に、最後に行われたプレゼンテーションはとても評価され、IOC（国際オリンピック委員会）の方々の心を動かしたということがあったそうです。

最終プレゼンテーションが行われた日、私もテレビで見えていました。最初に述べられたことは、東日本大震災の後に世界の方々が救援をしてくださったことへの感謝の言葉でした。私は、ハッとさせられました。「どのように日本のよさをアピールするのか」ということばかり考えていたからです。こういう事が大事なのだと思いました。後から新聞で読んだのですが、あの感謝の言葉は「プレゼンテーションとは関係ない」ということが、公式的立場なのだそうです。しかし、きっとここで、IOC委員の方々の心をつかんだのではないかと思います。そして、それからメッセージです。

「日本はとてすばらしい国。安全で、設備も資金面でのサポートも整っている。」

「コンパクトな会場配置で、大会の運営もスムーズに行う力がある。」

「スポーツには人と人をつなぐ力がある。スポーツには元気を与える力がある。パッションがある。」

「日本は“おもてなしの心”で皆さんをお迎えする」「日本で開催したい！」

そういった内容を、ストーリー性を持たせアピール点をはっきりさせて、心をこめて伝えていました。ご覧になった方も多くいらっしゃると思います。

私は、「プレゼンテーション力」を感じました。グローバル社会の中で生き抜いていくには、このような力が必要なのだと改めて感じました。「わかりやすく論理的に伝える」「身振りや表情を豊かにする」といったスキル面はもちろんですが、相手の気持ちになって話すこと、感謝の気持ちを忘れないことは、どんなときも忘れてはいけないことだと感じました。

「プレゼンテーション力の」は、ビジネスの世界では当たり前のことなのかもしれません。これまで日本人は苦手といわれてきました。附属大泉小学校の教育では、どのように育てているのでしょうか。

いろいろと機会があります。3年生以上が取り組んでいるフリータイム学習の発表はまさにプレゼンテーションです。自分の研究内容をわかりやすく伝え話すことが重要です。また、普段の授業の中でも、自分の意見を言うことや学習のふりかえりを書くことも、プレゼンテーションに繋がる力です。話し合いを多く取り入れた問題解決型の授業を展開することが益々重要になります。相手のことを思いやりながら、自分の考えや気持ちを伝え合える力を今後も育成していきたいと考えます。

7年後の2020年、6年生は18～19才になっています。今、運動会練習が真っ盛りですが、オリンピックに出場する選手がでてくるかもしれません。子どもたちの未来に大いに期待しています。

最後になりましたが、10月5日に開催する本校運動会では、各PTA委員やおやじの会の方々に見回りや受付、椅子ふきなど、様々な点でご協力をいただけますこと、感謝申し上げます。